

令和7年度 学校評価に関する考察

令和7年11月実施

今年度の学校評価も、25項目について「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」の4つの選択肢で行った。ポイントは順に4、3、2、1ポイントとし、昨年度の学校評価のポイントを合わせ比較できるようにした。また、一昨年度は3、2、1ポイントで集計をしていたため、改めてポイントを換算して合わせ、3カ年で比較できるようにした。また、保護者に関しては「分からない」を加え、5つの選択肢で行った。

回答の平均が2.0ポイントとなった場合、50%が肯定的な評価をしていることとなる。

ポイント	割合
4.0	100%
3.0	75%
2.0	50%
1.0	25%

学校の教育目標の質問項目の内訳は、以下の通りである。

教育目標	項目
心豊かな子の育成	1、6 ~ 12
進んで学ぶ子の育成	2 ~ 5
健康でたくましい子の育成	13 ~ 16
信頼される学校	17 ~ 22

I 心豊かな子の育成（1、6～12）

◎評価の高い項目

心豊かな子の育成の項目では、児童、保護者、教職員とも「⑦約束やきまり」、「⑧思いやり」、「⑨行事の取組」、「⑩いじめをしない」、「⑫係、委員会、清掃」の項目において3.0ポイント以上となった。特に⑫の児童は3.6ポイントと高く、自分の役割や責任をしっかりと果たしたいと考えて行動しようとしていることが伺える。また、家庭での家族の一員としてお手伝い等の役割や、教職員による様々な教育活動場面での一人一役や場の設定など工夫しながら実践している事も影響していると考えられる。今後も継続して教育活動に当たるとともに、家庭とも連携を深め清掃やお手伝い等家族の一員としての役割を自覚させ、子どもができたなら褒める認める声掛けを行っていききたい。

○評価の低い項目

「⑥読書」に関する項目では児童2.8ポイント、保護者2.4ポイントと低い結果となった。保護者全体の経年比較ではポイントが上昇しているが、依然低いポイントである。ボランティアによる読み聞かせや図書委員によるブックトーク、多読賞の表彰など、読書への意識向上を図るために取組をおこなっているがポイントの上昇は見られない。これまで取り組んできたことを見直し改善していく必要があると思われる。例えば、下野市電子図書館の活用や好きなジャンルの本を見つける活動、読書感想文でなく、読んだ本の内容をタブレットの画像・動画アプリなどを活用してまとめて発表するなど、本を楽しむ活動も取り入れていくことも検討していく必要がある。また、図書館だよりでは、新しい図書の紹介と併せて、親子で楽しめる本の紹介（本校図書館にある書籍やお薦めの書籍）など、まずは保護者にも取り組んでもらえるような提案や啓発をしていけるのではないかと考える。

Ⅱ 進んで学ぶ子の育成（２～５）

◎評価の高い項目

進んで学ぶ子の育成では、保護者の「⑤目標を持って自主的に家庭学習をしている」以外の項目で、3.0ポイント以上であった。

しかし、「②授業はわかりやすい。」「③授業に意欲的に取り組んでいる。」「④協力して学習する。」の項目を経年比較してみると児童、教職員ともポイントが下がっている。教員一人一人が、評価と指導の一体化させた授業実践を行い、分かりやすい授業ができるように指導改善に活かしながら授業の質を高めていきたい。また、教科や単元、題材の特性に合わせてタブレットや専用アプリなどを活用し、授業に意欲的に取り組める仕掛けを学校全体で考えていくことも考えられる。さらに、ペア学習やグループ学習などを意図的に取り入れ、学び合いの学習活動をより充実させていく必要がある。

○評価の低い項目

「⑤自主的に家庭学習に取り組んでいる」では、保護者2.9ポイントと低かった。経年比較では、年々上昇していることがわかるが、今後も継続的に保護者への啓発や子どもへの具体的な取組を教えていく必要がある。

家庭学習に取り組むためには、親が「勉強をさせる」のではなく、子どもが自発的に取り組むための仕組みや環境を作ることが重要といわれている。具体的には、学習場所を毎日決まった場所で勉強することで気持ちが「勉強モード」への切り替えがしやすくなることや、勉強に関係のないスマートフォン、漫画、ゲームなどは視界に入らないようにして、学習に集中できる空間をつくるなどが考えられる。このような情報を繰り返し保護者へ発信して、学習できる環境を整えられるように啓発していく。

また、家庭学習（宿題、課題等）で取り組んだことが授業に生かされ、家庭学習の頑張りや努力した過程を具体的に褒めて、認めることで子どもの自信

とやる気を引き出すなど、モチベーションを高められるように工夫改善していく必要がある。

Ⅲ 健康でたくましい子の育成（１３～１６）

◎評価の高い項目

健康でたくましい子の育成では、「⑬体力づくりに励んでいる。」「⑮安全を意識して生活している。」「⑯清潔を心がけ、身だしなみを整えて生活している。」の項目は3.0ポイント以上でありおおむね良好である。特に、保護者の項目⑬、⑮の経年比較では、ポイントが上昇している。⑬では保護者が運動会や持久走大会などの体育的行事に参観し、子どもの頑張っている姿を見ることで、子どもの成長とともに体力づくりに力を入れていると捉えているのではないかと考えられる。その他にもスポーツタイム、長縄大会や体力向上エキスパートティーチャー派遣事業など様々な取組について、今後も保護者へ発信していく。

⑮では、特にスマートフォンを持たせている家庭も多くなってきているために、スマートフォンの使い方やSNS等の使い方やルールなど家庭で決めるなど保護者の危機感が高まってきたのではないかと考えられる。今後も学校から安全に関する情報は速やかに発信したり啓発したりしていきながら、地域で危機意識を高められるようにしていく。

○評価の低い項目

「⑭マナーを守って給食を食べている。」については、保護者が給食を食べている様子を見る機会がないために、ポイントが低いと考えられる。今後も、給食だよりなどを通して、給食の様子などを発信していくことや、新入生の給食ボランティアで来ていただいた際に、給食の様子を見ていただいたりする

機会を設ける。

Ⅳ 信頼される学校（17～22）

◎評価の高い項目

信頼される学校では、児童の「⑫自分にはよいところがある。」の項目が経年比較で上昇している。教職員も昨年度から0.1ポイント上昇している。様々な教育活動場面において、一人一人の子どものよさに着目し、認めて褒めて励ますという地道な取組が広がってきているのではないかと考えられる。今後も子どもを主人公とした教育活動を心がけ、子どものよさを引き出せるような指導を心がけていく。

保護者、教職員「⑬他の学年や中学校など他の学校との学習や活動は楽しい。」の項目が昨年よりあがった。小中合同のクリーン作戦では中学生や多くの地域の方と一緒に清掃活動を行うことを通して、保護者や地域の方も活動のよさを理解できたのではないかと考える。今後も、より多くの保護者や地域の方を巻き込んでいけるよう、情報を発信していく。

児童、保護者「⑭先生は一人一人を大切にし熱心に児童の教育にあたっている。」の項目は昨年度より上昇している。授業での学習指導はもちろん児童指導等子どもたちへの日頃の指導や声掛けなどを通して、子どもと教員の関係性がおおむねよい関係が築けていると考えられる。また、保護者に対してもていねいに対応していることが考えられる。児童指導関係で保護者に連絡をする際には、児童指導主任を中心となり対応や手立てを考えチームでていねいに対応する態勢ができてきていることも要因の一つではないかと考える。今後もさらに子どもや保護者、地域から信頼されるような学校を目指して取り組んでいく。

○評価の低い項目

児童、教職員「⑮先生は、困ったことや悩み事を相談しやすい。」の項目で

は、昨年度より0.1ポイント下がった。子どもから相談しやすい雰囲気をつくることはもちろん、多くの教職員が子ども一人一人と関わり合い、担任以外の教職員にも声を掛けやすい雰囲気を学校全体でつくっていけるようにすることが考えられる。これまでも取り組んできたことではあるが、より意識を高く学校全体で取り組んでいく。

Ⅴ その他（23～25）

保護者「⑯学校は適切な教育方針を立て、教育活動を進めている。」の項目では、昨年度より0.1ポイント上昇した。教職員一人一人が、教育目標を基にして様々な教育活動を実践することで、子どもたちの姿にも表れ保護者の捉えも変化したのではないかと考える。また、それらを学校だよりや学年だより等で発信し理解していただけたのではないかと考える。今後も本校が目指す児童のすがたや学校教育目標に近づけるために教職員一丸となって取り組んでいきたい。